

2025年度 アスパラガス病害虫防除暦【ハウス作型】

安全・安心な農産物生産のために 防除・使用基準を厳守しましょう

JA中野市営農センター

散布日	散布回数・時期		散布薬剤(水 100ℓ当り)		使用時期	使用回数	散布量(ℓ)	対象病害虫	注意事項
	特	萌芽直後	ユニフォーム粒剤	10a 当り					
				10a 当り 12 kg	前日	3回以内※	株元 散布	疫病	萌芽を確認したら、株元を中心に畝面へ散布 平畝栽培の場合、1か月毎に計3回実施
／	1	立茎開始 3日前	アミスター20フロアブル	50 ml	前日	4回以内 ※	200	茎枯病、斑点病、 褐斑病	茎枯病の多発圃場は、収穫打切後、全刈りを実施し、すぐに第1回目の薬剤を畝面全体に散布し、乾いてから5cm以上の盛り土後、芽の高さが2～5cm程度のときに2回目の薬剤散布。その後5日以内に3回目の薬剤を丁寧に散布する。 ※アミスター20フロアブルは、①展着剤は使用しない。②薬液が乾きにくい条件下(夕方・曇天時)では使用しない。③雨露等でアスパラガスがぬれている状態では使用しない。④薬剤耐性が生じやすいので連用しない ※ユニフォーム粒剤を3回使用した場合、アミスター20フロアブルの使用は1回のみ。
／	2	第1回 散布後 5日以内	展着剤(ハイトンパワー) ベンレート水和剤	20 ml 50g	前日	4回以内	200	茎枯病、株腐病	
／	3	第2回 散布後 5日以内	展着剤(ハイトンパワー) パレード20フロアブル	20 ml 50 ml	前日	3回以内	200	斑点病、茎枯病	
／	4	5月下旬	展着剤(アビオンE) モスピラン顆粒水溶剤 ロブラール水和剤	100 ml 25g 50g	前日 前日	2回以内 5回以内	200	アブラムシ類、アザミウマ類、 カメムシ類、コジラミ類 茎枯病、斑点病、褐斑病	
／	5	6月 上中旬	展着剤(ハイトンパワー) コルト顆粒水和剤 ダコニール1000	20 ml 25g 100 ml	前日 前日	3回以内 4回以内	300	アザミウマ、 カメムシ類 コジラミ類 茎枯病、疫病 斑点病、褐斑病	
／	6	6月下旬	展着剤(ハイトンパワー) カスケード乳剤	20 ml 25 ml	前日	2回以内	300	オオカブト、ハスモンヨトウ アザミウマ類	カメムシ類が多い場合は、ダントツ水溶剤4,000倍を加用する。
／	7	7月 上中旬	展着剤(ハイトンパワー) ダントツ水溶剤 シグナムWDG	20 ml 25g 66g	前日 前日	3回以内 2回以内	300	アブラムシ類、アザミウマ カメムシ類、茎枯病、 斑点病、褐斑病	草勢維持のため状況により、薬剤散布と併せて7～8月はアミノメリット特青500倍の葉面散布を行う。 ※その場合展着剤不要
／	8	7月 中下旬	展着剤(ハイトンパワー) ディアナSC ダコニール1000	20 ml 40 ml 100 ml	前日 前日	2回以内 4回以内	300	オオカブト、ハスモンヨトウ アザミウマ類、コジラミ類 茎枯病、斑点病、 褐斑病、疫病	
／	9	8月 上中旬	展着剤(ハイトンパワー) ダントツ水溶剤 ロブラール水和剤	20 ml 25g 50g	前日 前日	3回以内 5回以内	300	ジューンホシキリ、カハムシ アブラムシ類、アザミウマ カメムシ類、 茎枯病、斑点病、褐斑病	①ダニの発生が多い場合、コロマイト乳剤(1000倍・前日まで・2回以内)を散布する。 ②収穫終了し、ビニールを外した場合は「ロブラール水和剤」に代えて「ジマンダイセン水和剤」(500倍、収穫終了後、6回以内)を散布する。
／	10	8月 中下旬	展着剤(ハイトンパワー) モスピラン顆粒水溶剤 ラリー水和剤	20 ml 25g 25g	前日 前日	2回以内 2回以内	300	アザミウマ類、アブラムシ類、 カメムシ類、コジラミ類、 茎枯病、斑点病、 褐斑病	
「次年度の収量確保に向けて」 9月以降は薬剤散布と併せてメリット赤(500倍希釈)を葉面散布(展着剤不要)する。 また、草勢の維持向上のため9月上旬以降は雨よけビニールを外しましょう。									
／	11	9月 上中旬	展着剤(ハイトンパワー) ディアナSC ダコニール1000	20 ml 40 ml 100 ml	前日 前日	2回以内 4回以内	300	オオカブト、ハスモンヨトウ アザミウマ類、コジラミ類 茎枯病、斑点病、 褐斑病、疫病	収穫を終了し、ビニールを外した場合は「ダコニール1000」に代えて「ジマンダイセン水和剤」(500倍、収穫終了後、6回以内)を散布する。
／	12	9月 中下旬	展着剤(ハイトンパワー) ベンレート水和剤	20 ml 50g	前日	4回以内	300	茎枯病、株腐病	メリット赤を混用する場合は展着剤不要。
／	13	10月 上中旬	展着剤(アビオンE) ICボルドー66D	100 ml 2 kg	収穫 終了後	—	300	茎枯病、斑点病	メリット赤を混用する場合も薬剤持続性を高めるため、展着剤アビオンEを添加する。 また、凝固する恐れがあるため、PKゴーはicボルドーと混用しない。

- (注) 1. パーナーによるアスパラガスの残茎や土壌表面の焼却は茎枯病の予防効果があり、毎年発生が多い場合は実施する。
2. 春収穫期間中、害虫の発生が見られる場合は、登録内容に基づきウララDF、アディオン乳剤を散布する。
3. 雨の多い場合は散布間隔をつめる
4. 散布間隔があく場合(収穫打ち切りの早い圃場等)や連続降雨後の定期防除の合間の防除にコサイド3000の2,000倍液を散布する。
5. 収穫打切後すぐビニールをはがさず8月下旬頃まで雨よけをすることにより、茎枯病等の病気が軽減される。
6. PKゴーと薬剤を同じ容器に少量の水で溶かすと凝固する恐れがあるので、別の容器に溶かしてから散布する。

◎混用例：展着剤 ⇒ 液剤 ⇒ 乳剤 ⇒ 顆粒水溶剤 ⇒ 水溶剤 ⇒ フロアブル ⇒ ドライフロアブル(DF) ⇒ 顆粒水和剤(WDG) ⇒ 水和剤

当防除暦の複製・コピーを禁止します